

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

療育すぺーすノア 2024年4月

スタッフ9名の回答を集計の上、事業所の姿勢をまとめたもの。次回のスタッフ会議でさらに確認

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など（スタッフのコメント）
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	4	1	水曜日は定員が多く、ムーブメントのスペースが狭い。セッションは、時空を分けて工夫して行っている。（生徒の身体も大きくなり手狭感あり）
	②	職員の配置数は適切であるか	3	3	3	利用者の多い日に相応の職員配置をして行きたいが、職員不足気味。（日中一時のときや、曜日によって職員が足りない。休まれるときも）
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	4	2	訓練室内部は大丈夫。通路が階段だけで利用できる方に限りがある。避難通路に問題あり。万一のときの備えを試行していく。（階段を含めて施設全体を考えればバリアフリーとは言えない）
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5	4		支援会議、振り返り、日常の会話で行っているが、明確に PDCA として位置付けて特別な時間を設定はしていない。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9			例年行っている、これからも積極的に行っていく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	3	1	ニュースレターや、ホームページで公開していく。（進行中）
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	9			第三者委員会の受診をした。改善に資したい。これからである。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	2	2	内部では、いっしょに絵画を描くなど共に研鑽している。外部での研修は、自主的に行っていたい。OJT 研修は定期的に。（正職は外部研修の機会があるが、非常勤は機会を取ることはむづかしい）
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	3		毎日の支援会議および定期の会議でニーズと課題を分析し、話し合っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	6	1	リトミックやムーブメント等を援用して行動傾向の観察と矯正を図っている。

の提供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	6		コアスタッフで相談しながら進めている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	5		折りにつけ見直しをし、変化に応じるように改良したりして、柔軟に対応している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4	5		長期休み中は、長い滞在時間に応じて、緩やかで大まかな目標を設定している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	3		この目標に、スタッフ全員が最も意を用いている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9			日々の支援会議で打ち合わせをし、確認している。会議の時間を取れないときは、個別に持ち回って伝達している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	4		時間のある時は、その日は居合わせたスタッフ間で話し合っている。居合わせない人は、次の支援会議などで共有するようにしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7	2		その日の活動の記録をとっている。保護者への連絡、モニタリングの資料にも活用している。

関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	3		半年、1年の刻みで見直しを行い必要性を判断している。折々の話し合いでも特に必要を感じる子については、議論を深めている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	6		総則を精読して有機的に組み合わせている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4	5		要請があった折には、最もふさわしい者が参加していた。近時会議の招集がない。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8			保護者を通しての連絡が基本であるが、学校とも連絡をとっている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	3	1	特別な必要性ある子どもを受け入れていない。看護師等医療体制が整っていないので、今後も受け入れる用意はないが、発作等を持つ子については、連絡体制をとっている。

	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	5		ノアのスタッフがこれらの機関と人的なつながりを持つ一部の事業所とは情報を交換している。個人情報の壁がある。
	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	4	1	必要に応じて、今後当方からも働きかけたい。（今までとくに要請されたことはない）
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	2	4	特に連携したり、助言・研修を受けることはない。これからその機会を考えていく。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		2	6	地域的距離的時間的に、児童クラブや児童館と接触する機会には取れない。
	②⑦	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	1	5	3	ケース会議の招集があれば参加している。また、こちらからも会議招集を打診するときもある。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	1		日常的にすべての子どもについて行っているわけではないが、送迎時に簡単にお伝えし、またその日の療育の記録をお渡ししている。
保護者への説明責任等	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		3	6	懇談の機会に、問題点を共有し、いっしょに考える訓練をしている。ワークショップ的ないわゆるペアレントトレーニングは行っていない。代わりに、保護者も参加していただく、さをり織りの講習会等の機会を通して、トレーニングにつながる話し合いの機会を考えている。
	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	3		契約時に丁寧な説明を行い、文書によって補完している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	3		制度的に一定の機会を設けてはいないが、電話での対応、送迎時、懇談の機会などを用いて行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		1	8	前向きに考えている。さをり織の催しを行ったり、保護者会の前提となるような活動から取り組んで行く。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	2		苦情については、現場のスタッフが第1に対応し、他のスタッフと共有し話し合っている。保護者へは折り返し、時宜に応じてフィードバックしている。

	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	2	1	ぜひ必要である。ニュースレターをこれからも発行し、メール通信を通してお伝えしていた、ホームページを有効に利用できるようにしたい。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	8	1		充分注意している。まれにミスが発生したときは、拡散を防ぎお詫び申し上げている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	1		療育の現場でも、サインや身振りなど様々に工夫している。保護者ともゆっくり丁寧に対応している。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		2	6	これからもっと広く行いたい。「ぷろぼの」と交流したり、図書館と友好的に接触している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8	1		防犯マニュアル以外は作っている。職員や保護者に周知する機会を考えていく。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	2		コロナ禍でやや途絶えている。SST、療育の一環として定期的に取り込んで行きたい。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	3	4	2	仕事時間中特別の研修は難しいが、療育の仕事を通して虐待のありようを学んで行くことをしている。スタッフ会議の折に、虐待防止の要点を研修する予定である。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4	3	1	身体的拘束を行うことはない。緊急避難的な要件で例外的に行うときは、法に従っている。デイサービス計画に記載しなければならないようなケースはない。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6	1	2	おやつについては、事前に調べて対応しているが、医師の指示書に基づいての対応が必要なケースはない。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	1	1	以前はかなり実施していたが、今は少し絞りをかけている。（これから必要である）

上記①～⑬について、療育すぺーすノアのスタッフ一同で共有確認いたしました。

2024.4.25